

事業番号 【1】 3

平成25年度 外部評価 事業評価シート（平成24年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	ごみ減量化推進事業						
事業期間	開始年度	平成23年度	～	終了予定年度	—	担当部	環境部
総合計画	めざすまちの姿	6 自然と環境に配慮したきれいなまち			担当課	ごみ減量課	
	基本計画【施策】	6 資源循環型社会を構築する (リデュース・リユース・リサイクル)			担当係	減量係	
	成果指標	ステーション可燃ごみ収集量(内、生ごみ収集量) 一般廃棄物排出量(1人1日当たり)			中間目標 (H27)	7600t (3,000t) 860g	
関連予算科目	一般 会計	4 款	衛生費	2 項	清掃費	1 目	塵芥処理費
	予算事業名	事業1	145	廃棄物対策費			
	事務事業名	事業2	297	ごみ減量化推進事業			
位置づけ	関連計画	湖西市一般廃棄物処理基本計画、湖西市一般廃棄物処理実施計画					
	根拠法令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、湖西市における廃棄物の減量及び適正に関する条例と規則					
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 (
対象(誰のため)	<input checked="" type="checkbox"/> 全市民 <input type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的 (何のため)	資源循環型社会の構築を目的とする						
内容(概要)	<p>①家庭での生ごみ堆肥化やごみの減量化を促進するため、講習会を開催し、ごみ減量のための資材をモニターとして配布する。生ごみ堆肥化容器購入を促進するため補助金を交付。</p> <p>②草・木製家具・木くず等を資源化处理し、可燃ごみとして焼却処理量を減らす。</p> <p>③古紙・古布がごみステーションに出ないように、ごみの資源化を促進するため、第3日曜日環境センターにおいて資源ごみの受け入れを行う。</p>						
これまでの改善・見直しの状況	<ul style="list-style-type: none"> 古紙、古布回収拠点の設置 生ごみ減量講習会開催 草木枝等の回収と再資源化处理 生ごみ消滅容器「キエーロ」モニター 資源の日受入（毎月第3日曜日の午前） 						

2. コスト 【13】

		単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度支出の内訳
事業費(A)	予算	千円	24,619	25,436	41,147	(内訳)※支出内容の詳細 ○報酬
	決算	千円	18,744	21,385		
財源内訳	国庫支出金	千円				非常勤職員報酬 10,320
	県支出金	千円				○手数料、通信運搬費等 10,588
	地方債	千円				○委託料
	その他	千円	598	2,215	230	資源の日等受入業務 74
	一般財源	千円	18,146	19,170	40,917	○補助金
人件費(B)	千円	9,565	9,797	10,179	生ごみ堆肥化容器設置費 403	
人工(職員数の内訳)	人	1.25	1.29		21,385	
トータルコスト(A)+(B)	千円	28,309	31,182	51,326		

3. 事業の評価

事業の実施状況

内容		単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
活動指標	ステーション可燃ごみ収集量	トン	目標	9,800	9,100	8,400
			実績	9,854	9,250	
			達成度	未達成	未達成	0.0%
	ステーション可燃ごみの生ごみ収集量	トン	目標	5200	4,600	4000
		実績	5154	4,912		
		達成度	達成	未達成	0.0%	
実績・改善	平成24度 活動内容・実績	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ分別・減量説明会や施設見学の開催 ・生ごみ減量講習会の開催 ・広報こさい等での周知 ・生ごみ堆肥化機器等の公共施設での展示 ・イベント等でのごみ分別・減量展示や分別ゲームを実施 <p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみステーション回収の木枝・草の資源化処理量 586 t ・ごみ分別・減量講習会 65回、3,468名参加 ・生ごみ減量講習会 47回、283名参加 ・生ごみ処理容器購入補助 66基53世帯、403千円 ・生ごみ消滅容器「キエーロ」のモニター配布 215基 				
	課題・問題点 となった事項	<p>【15】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民へのごみ減量の効果的な周知が出来ない。 ・市民のごみ分別ルールの徹底が図られていない。 ・ごみ減量を推進しても、実践する市民が少ない。 				
	課題にどう対処したか(改善等)	<p>【16】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ出しルールの徹底と意識の向上を図るため、ごみ分別・減量説明会の開催依頼を各種団体に文書で送付した。 ・生ごみ処理を推進するため、消滅容器「キエーロ」を粗大ごみのタンスから作成し、市民モニターを募集した。 				
【17】 [評価の視点]						
自己評価	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズ、緊急性、法的根拠など市が主体的に実施する必要性は高いか ・事業実施の意義や必要性が変化していないか ・惰性的に実施していないか 			
	有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・成果が上がり、期待したとおりの効果が上がっているか。 ・目標に対しての達成度はどうであったか。 ・成果に向けた行政の活動量は十分であったか。・上位施策への貢献度は高いか。 			
	効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のOA化や外部委託、その他の方法により業務の効率化を図ることができないか。(成果を下げずに事業費を削減できないか。) ・実施体制は妥当か。(従事職員数は適正か。) ・市の他事業に類似した事業はないか、また統合できる可能性はないか。 ・適正な受益者負担を求めているか。 			
	優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・同一施策内での優先度は高いか。 ・事業を廃止した場合、市民生活や市の他施策・事業に影響があるか。 			
総合判定	【20】	A	<p>[理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量は、時代の要請であり、より一層の減量を図るため、事業の継続実施が必要である。 			

4. 今後の事業の方向性（次年度以降に反映）

事業の方向性	【21】	継続（現行のとおり）	実施主体	市
今後の方向性	【22】	ごみ減量化を推進するため、各種施策を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ消滅容器「キエーロ」を市民へ普及 ・剪定枝、草の分別収集の徹底 ・ごみ分別・減量説明会の開催 ・生ごみ減量講習会の開催 ・古紙・古布回収拠点等を増設し、いつでも気軽に出しやすい環境をつくる。 ・古紙回収を推進するため、雑がみ回収袋を公共施設やイベントで配布予定 		

ごみ分別・減量説明会の開催状況

(単位:人)

年度	内 容	開催回数	開催回数計	参加人数	計
22	環境センター施設見学	10	61	700	4,613
	ごみ分別・減量説明会	51		3,913	
23	環境センター施設見学	3	27	226	1,166
	ごみ分別・減量説明会	24		940	
24	環境センター施設見学	8	73	323	3,791
	ごみ分別・減量説明会	65		3,468	

生ごみ減量講習会の開催状況

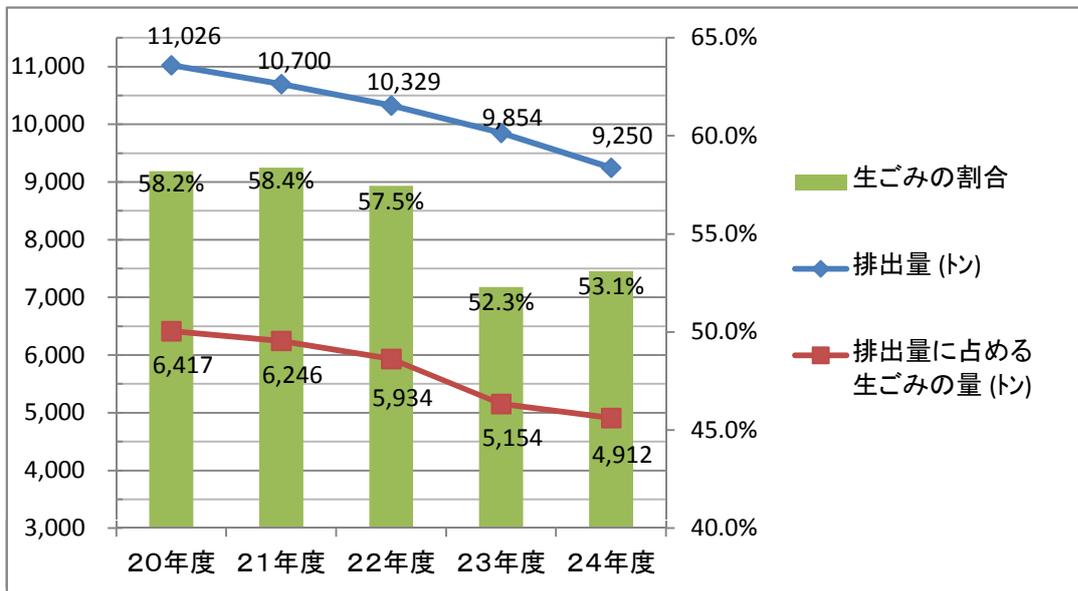
(単位:人)

年度	内 容	開催回数	参加者	計
22	密閉型容器編(EM)	1	33	33
23	密閉型容器編(EM)	2	54	146
	消滅型容器編(キエーロ)	2	31	
	全般 入門編	1	36	
	コンポスト編	1	25	
24	密閉型容器編(EM)	3	41	283
	消滅型容器編(キエーロ)	40	215	
	全般 入門編	2	5	
	コンポスト編	2	22	

ごみステーション可燃ごみに占める生ごみ量の推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
排出量(トン)	11,026	10,700	10,329	9,854	9,250
排出量に占める生ごみの量(トン)	6,417	6,246	5,934	5,154	4,912
生ごみの割合	58.2%	58.4%	57.5%	52.3%	53.1%

※平成22年10月1日から可燃ごみの処理を浜松市に委託



生ごみ処理容器の状況

生ごみ堆肥化容器（補助金）

年度	申請者世帯数	堆肥化容器	電気式	合計基数	補助額
		基数	基数	基数	
平成19年度	43	19	32	51	636,200円
平成20年度	59	28	39	67	786,900円
平成21年度	35	24	16	40	352,080円
平成22年度	60	57	20	77	483,600円
平成23年度	107	133	18	151	549,000円
平成24年度	53	51	15	66	402,900円
合計	357	312	140	452	3,210,680円

生ごみ消滅容器
キエー口

基数
0
0
0
0
29
215
244

合計

基数
51
67
40
77
180
281
696

※キエー口は、無料配布（モニターあり）

H24年度 生ごみ堆肥化容器別の補助状況

種別	コンポスト		EM容器		電気式		計	
	世帯数	基数	世帯数	基数	世帯数	基数	世帯数	基数
湖西地区	17	20	11	19	9	9	37	48
新居地区	8	10	2	2	6	6	16	18
計	25	30	13	21	15	15	53	66

湖西市生ごみ堆肥化容器等設置購入費補助制度について

○対象となるもの

生ごみ堆肥化容器
及び
生ごみ処理機

- ①電氣を使用しないもの
コンポスト、密閉発酵容器 など
- ②電氣を使用するもの
電氣式処理機

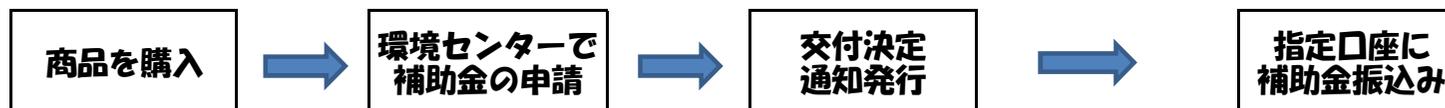
○対象者

市内に居住及び設置スペースがある方

○補助金額

容器の種類	補助の対象者	補助の額（100円未満切り捨て）
電氣を使用しないもの	1世帯当たり2基が申請限度です。 ただし、補助金の交付を受けた後5年を経過した時は、再度申請することができます。	1基につき、購入費の2分の1以内で20,000円を限度とします。
電氣を使用するもの	1世帯当たり1基が申請限度です。 ただし、補助金の交付を受けた後5年を経過した時は、再度申請することができます。	購入費の2分の1以内で20,000円を限度とします。

○補助金の申請手順



申請には、下記のものが必要です。

- ・領収書（氏名、製品名、購入年月日が明記されているもの）
- ・保証書（電氣式生ごみ処理機は必ず必要。その他容器は、保証書が発行されている場合）
- ・振込口座が分かるもの
- ・認め印

問合せ先 湖西市ごみ減量課（環境センター）
電話 053-577-1280
FAX 053-577-3253

生ごみ処理機一覧表

湖西市
ごみ減量課

	種類	特徴と留意点	処理容器等	備考
堆肥を使いたい方	コンポスト このような方にお勧め ・容器を設置する庭や畑がある ・手間や維持費をかけたくない	・大量の生ごみにも対応 ・半年から1年かけて堆肥を生成 ・落ち葉と生ごみを一緒に混ぜたり乾いた土を入れて水分調節する。		購入費の助成があります。 詳しくは、ごみ減量課へお問い合わせください。
	EM密閉型容器 このような方にお勧め ・屋内で使用したい	・良質な堆肥がたくさんできる ・虫が発生しにくい ・清潔な管理とボカシが必要		
堆肥はいらぬ方	電気式処理機 このような方にお勧め ・屋内で使用したい ・手間をかけたくない	・手軽に使える ・季節に関係なく安定処理！ ・温風で乾燥させる「乾燥型」と微生物の力で分解する「バイオ型」がある。 ・虫や臭いが発生しにくい		モニター募集中！ 容器は、市から無償配付します。
	キエーロ このような方にお勧め ・容器を設置する庭や畑がある ・手間や維持費をかけたくない	・手軽に使える ・汁物、腐った物、カビた物でもOK ・虫や臭いが発生しにくい ・土を入替えた場合は、土を堆肥代わりに使える。		

平成25年度 湖西市外部評価 質疑応答要旨

事業名 ごみ減量化推進事業

質問内容	回 答
<p>ゴミの減量に努め、生ゴミ処理機を購入しようと考えても、たいてい2万円以上の自己負担がかかる。誰でも買えるわけではない。毎年、全額補助のモニターを募集して、どのくらい生ゴミのキロ数が減ったか統計をとっていくようにしたらどうか。そしてその減量分が年間どのくらいのゴミ処理の負担額に相当するか市民に示したらどうか。</p>	<p>全額補助のモニターについては、予算との兼ね合いもあるので、今後検討させていただきたいと考えます。電気式処理機は、平均 50,000円から70,000円で購入費の2分の1が補助されるとはいうものの、20,000円が限度となっています。一般的に、各世帯から生ごみは、1日800g出るため、1基あたり年間292kgの生ごみ減量に貢献していると思います。現在、市民が使用している容器が1,500基と仮定しますと、年間438トンで、8,900千円の処理経費が節約できていると予想しています。</p>
<p>確実にモニターを実施しようとするならば、生ゴミ処理の減量のモニターを自治会単位や市民活動単位で募集してみたらよいと考えるが、いかがか。</p>	<p>自治会単位だと規模が大きいので、その中の町内会単位や組単位が規模的には良いと考えます。また、市民活動団体単位で実施できるとありがたいと考えます。今後も、自治会や各種団体を対象に講習会の開催を積極的に依頼していきたいと考えていますので、興味のある市民活動団体があればご紹介いただくとありがたいです。</p>
<p>ゴミリサイクルのための設備等をゴミステーション、その他地域に設置し、リサイクル活動の見える化を進めてみてはどうか。そうすることによって、市民の意識の向上につながると考える。</p>	<p>リサイクルの見える化については、環境センターのホールで、空きびん、ペットボトル、飲料水缶、プラマーク製品、古紙等のリサイクルについて、パネルや実物で展示しています。市役所の市民ホールでも、生ごみ減量や各種リサイクルの展示をしています。今後、他の公共施設でもリサイクルについて啓発したいと考えています。ゴミステーションへの対応に関しては、コスト面を始めいろいろな問題があり、対応は難しいと考えます。代わりにゴミステーションに来ていただく前の、家庭での対策として、水きりが簡単にできる便利グッズを準備してまして、イベントで配布をしていきます。</p>
<p>ごみになるかからないかはインプットとアウトプットの関係も見べきでは。「リデュース」のごみとなってしまうものを減らす活動をスーパー等に働きかけはできないか。レジ袋の廃止が第一弾としたら、包装紙や包装袋を第二弾として実施すべきでは。</p>	<p>レジ袋の廃止は合併前の湖西市の取り組みでありまして、旧新居町ではまだ対応が進んでいませんので、対応をしていきたいと考えます。地球温暖化対策としての事業が取り組みとしての始まりであったため、その担当課である環境課と連携して対応を進めたいと考えます。過剰包装も、店の経営戦略にかかることであるので、難しい問題と考えますが、レジ袋の廃止のように全国的な運動になると、市でも推進しやすくなると思います。</p>
<p>資源のリサイクルで得た利益や生み出された製品等が市内に提供されているか。トイレットペーパーなどのリサイクル製品の配布など、市民個人がリサイクルにおける利益が実感できるような取り組みをすべきだと考えるが、どうか。</p>	<p>現在、環境センターや市役所の市民ホールでリサイクルされたものを展示していますが、まだまだ啓発が不足していると考えています。今後は、イベント等で水きりグッズと合わせてリサイクル製品を配布したいと考えます。</p>

平成25年度 湖西市外部評価 質疑応答要旨

事業名 ごみ減量化推進事業

質問内容	回 答
<p>市民に対して、課長を先頭にゴミ減量の訴えを積極的に行っていることは大いに評価している。</p> <p>ただ、ここはもうひとつ踏み込み、「生ごみの分別収集」をする考えはどうか。</p> <p>目標は、総合計画では、生ごみを6,000トンから2,700トンへの減少を目指すところがあるが、この目標をゼロにするということではとらえたらどうか。</p> <p>現状で6,000トンということは約1億2千万円かかっている。</p> <p>過去からいろいろと分別収集をやってきた。残された生ごみを分別収集の対象としたらどうか。</p>	<p>現在の生ごみ処理容器の普及だけでは、達成できないと思われま。</p> <p>なお、コストの面から考えますと、現在浜松市への委託料の、トンあたり20,500円の経費の他、収集コストがトンあたり約10,000円かかる計算となっており総コストはトンあたり約31,000円と認識しています。生ごみの分別収集については、実際にごみステーションに専用のバケツを備え、バケツごと回収している自治体がありまして、総コストがトンあたり約60,000円と確認しています。一番の目的は浜松への委託料支出の総額を減らすことという点から考えると、慎重にならざるを得ず、他市の状況を参考にしまして、費用対効果を考え、コストダウンが図られれば検討していきたいと考えます。</p>
<p>生ゴミ処理器などによって生み出された堆肥を必要としている農家や広い花壇のある学校、「花と緑のまちづくり」の事業に関わる地域の花壇を管理している団体、育苗施設等に提供することによって、農家さんから野菜がもらえたり、花の苗がもらえるようなシステムがあるといいと考えるが、いかがか。</p>	<p>循環ができるシステムを構築できれば素晴らしいことだと思います。しかし、農家等が要求するような品質の良い堆肥、品質が均一化された堆肥は、原料が様々である堆肥をそのまま全ては使用できず、継続的に使用していただくのは難しいと考えるます。</p> <p>花壇については、育苗施設の管理や苗の配布を環境課で行っていますので、対応が可能か確認し、可能だということであれば検討を進めたいと考えます。</p>

評価結果詳細

事業名	3 ごみ減量化推進事業	外部評価結果（評価員10人）				
事業内容	<p>①家庭での生ごみ堆肥化やごみの減量化を促進するため、講習会を開催し、ごみ減量のための資材をモニターとして配布する。生ごみ堆肥化容器購入を促進するため補助金を交付。</p> <p>②草・木製家具・木くず等を資源化処理し、可燃ごみとして焼却処理量を減らす。</p> <p>③古紙・古布がごみステーションに出ないよう、ごみの資源化を促進するため、第3日曜日に環境センターにおいて資源ごみの受け入れを行う。</p>	A	B	C	D	E
		継続	改善			廃止
			その他	一部改善	実施主体の変更	
		6	4	0	0	0
評価理由・改善案 主な意見 (評価員)	<p>【A 継続】 6人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量に対する市民への周知徹底と意識向上を図る工夫(小学生への勉強会など)が必要。 ・ごみ減量化による行政コスト削減がされたかという見える化などにより、市民にPRすることが必要。 ・量を減らすという目的がはっきりしていて、今後もより一層の充実をお願いしたい。 ・今後の活動推進において、市民の協力は欠かせないので、市民の意識向上の手段の充実が必要。 ・講習会・説明会を多く実施しているようだが、実際に市民が生ごみの削減・リサイクルを促進しているのか、効果がうまく得られていないように思えた。活動指標の目標値を達成していないのに、オールAの自己評価はいかなものか。生ごみ減量やリサイクルの協力を促すための改善案が委員からも多数掲示されたが、この事業を継続しつつ新たな施策も講ずるべき。 ・湖西市は分別・リサイクルの仕組みが整っている。また、新しいやり方を考えているようなので、ぜひ取り組みを進めていってほしい。ごみを出した先がどうなっているのか、広報紙やごみカレンダーに掲載するなどして、市民周知に努めていただきたい。 <p>【B 改善:その他】 4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみとして出ていく可能性を減らす施策も大切な活動である。「ごみ減量化推進」という狭い考えでなく、採算管理で取り組むなど、テーマを広くとらえること。 ・学校に表を配布するなど、若い人や子どもたちにも分かりやすいごみ減量の数値の見える化によって、ごみの減量推進にたくさんの方がかかわれるようにしてください。 ・今後ごみは微減は達成されても大幅な減量は無理。生ごみの分別収集とそのための設備投資を行い、肥料としての資源化に努める。市民還元策として、生ごみの指定袋は無料配布など。 ・市民への意識づけに重点を置いて取り組んだ方がよい。水きりの推進が効果的に一番ではないのか。 					